

いでん講習会を受けた後の遺伝的知識と 知りたい遺伝情報の変化



岩手県参加者を対象に、遺伝に関する講習会（いでん講習会）を開催し、講習会の前後で遺伝に関する知識や知りたい遺伝情報に変化があるかを調べました。
アンケートにご回答いただいた112名の結果を報告します。

調査からわかったこと

1. 学歴に関係なく遺伝に関する知識が向上した

遺伝に関する知識について、いでん講習会受講後に得点が上昇し、知識が向上しました。また、講習会前には学歴が高いほど、遺伝に関する知識についての得点が高くなっていましたが、講習会を受講することで、その知識の差はなくなりました。

2. 知りたい遺伝情報が変化した

表 遺伝情報の種類ごとの遺伝結果を「知りたい」と思う割合

＜講習会前＞
遺伝情報は、種類に関わらず何でも欲しい。



＜講習会后＞
自分にとって役立つ遺伝情報の種類を選んで結果を知りたい。

項目	講習会前 (%)	講習会后 (%)
生活習慣病	90	78
薬の効きやすさや副作用	90	79
治療法のない成人発症疾患 (大人になって発症する病気)	73	56↓
治療法のない多因子疾患 (生活習慣などの環境要因*と、複数の遺伝要因*が関わる病気)	84	61↓
すべての遺伝情報	60	39↓

知りたい人は減った

※環境要因：食事、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣や年齢など

※遺伝要因：遺伝子のDNA配列や、働きの調節に関わるDNA配列など

この調査を通じて、対象者の方に個人の遺伝的検査の結果を、どのような準備をもってお伝えするかを考えるための重要な情報となりました。今後、ご本人に結果をお伝えする内容の検討に役立つことが期待されます。